

家庭医への道・・・女性医師として

第1回Generalistをめざす若手医師のためのセミナー
2007年1月13日(土)

井上真智子
東京ほくと医療生協 北足立生協診療所
北部東京家庭医療学センター

本日のお話

- 私の歩んできた道
- 女性医師の研修における課題は何か
- 女性家庭医を育てよう！



私の歩んできた道

- 学生時代
- 産婦人科研修医
- 家庭医療レジデント
- 診療所勤務医・所長
- ウィメンズヘルス
- 家庭医療学センター
- 指導医



女性医師研修の背景

- 平成16年 女性医師42,040名(16.4%)
 - 29才未満の医師の35.3%が女性

 - 高い離職率、職場復帰の困難さ
 - “スーパーウーマン”への敷居の高さ
 - 医師労働力減少へつながっている
-

日本小児科学会での調査(2004)

- 勤務形態
 - 独身では男女に差なし
 - 既婚女性では「非常勤」の割合が高い
 - 非常勤でも平均週41時間労働(39才以下)
 - 女性医師の47%が「休職」を経験
 - 既婚、子有りでは休職経験者の方が多い
 - 休職時期 卒後6.98±6.43年
 - 「育児」が最大の理由
-

充実した仕事を続ける上での支障



図. あなたが充実した仕事を続けるうえで支障は？
 ■ ほぼ全項目で女性のキャリアアップに支障あり
 ■ 「育児」では、男女間で39.7ポイントの乖離

望まれる職場復帰支援策

- 産休、育休中の代行医師確保
- 再研修、再教育システムの整備
- 再就職・パート勤務あっせん
 - 女性医師バンク
- ワークシェアリング・労働条件の整備
 - 保育施設の確保、子どもの急病、感染症対策、学校行事への参加を可能に

家庭医は「町のお医者さん」

- ジェネラリストというと
 - すばらしく優秀な頭脳の持ち主で
 - 広く深い知識と経験と絶え間ない努力により
 - 120%仕事に献身する
 - “スーパードクター”
 - のイメージをもたれやすく、非常に高い目標のように感じられるが
 - 実際のところ、家庭医は普通の「町のお医者さん」である
-

女性が家庭医をめざすとき

- 研修場所としては「診療所」に重点をおく
 - 妊娠、出産、育児を想定して
 - フレキシブルな研修カリキュラム
 - 研修期間の延長
 - 子育てをしながら診療所で働く家庭医像をロールモデルとして見据える
 - ワーク・ライフバランスをとりながら
 - 生活に密着したケアを
-

家庭医療と「ケアの倫理」

- 「治す」医療 < 「寄り添う」医療
 - 何が善いことか・2つの補完しあう倫理
 - 他人に干渉されずに自分で決める権利、そうした基本的な権利を誰にも認める正義、どのケースにもあてはまる原則を貫くこと(「正義の倫理」)
 - 他人の必要としていることを気づかい、おたがいに満足できる関係を築くこと(「ケアの倫理」)
 - 「ケアの倫理」は女性に親和性が高く、家庭医療において重視される倫理観でもある
-

女性家庭医養成への期待

- 町の診療所において女性家庭医が活躍できるようにすることは、地域住民の健康を守る目的に加え、医師のやりがいや医師労働力の有効活用のためにも意義深い。
 - 診療所をベースにした家庭医養成プログラムを充実させていくことが重要な課題である。
-